

〔事例発表〕

津久井やまゆり園利用者の受け入れに向けた意思決定支援事例

(社)同愛会 てらん広場 大川貴志

〔事例発表〕

津久井やまゆり園利用者の受け入れに向けた意思決定支援事例



平野 和己さん



松田 智子さん



事件から 現在まで

2016年 7月 ▼殺傷事件



2017年 4月 ▼芹が谷(横浜)等に引越し



2017年10月 ▼再生基本構想の策定

意思決定支援のスタート

123人

↓ そこから2年...

2019 年 やまゆり園から 地域へ



5人

映像でご紹介

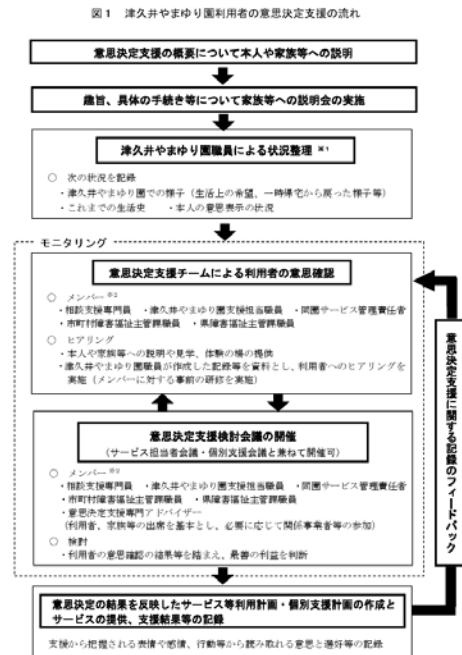
和己さんの受け入れ

①平野和己さんとの 出会い

▼PF横浜(当事者団体)に連絡
ご家族からのSOS

■ 本人の暮らしが厳しい
「閉じ込められている」
■ 意思決定支援への不安・恐れ
「意思表示なんてできない」
「うちの子はしゃべれない」

↓
県の意思決定支援の流れと
整合性をとりながら 支援してみよう



※1 他の施設を利用されている方は、当該施設の職員が状況整理を行う。
※2 当該施設の支援担当職員及びサービス管理責任者がメンバーとなり、必要に応じて津久井やまゆり園支援職員等も加わる。

②見立てを作る〔両親ヒアリング〕

成育歴を聞く(両親ヒアリング)

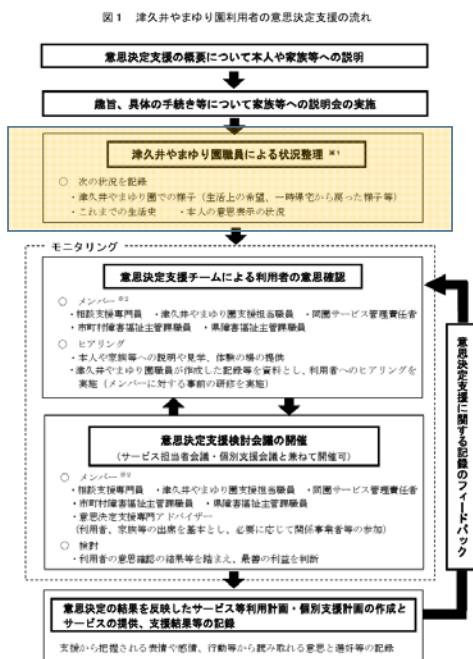
▼延々と話された

「何もできない」

「気に食わないことがあると暴れる」

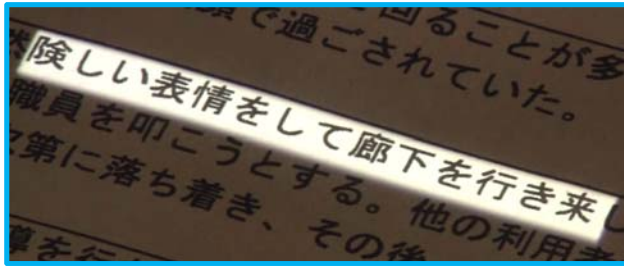
→ 先出しカミングアウト

→ 謝り続けた人生だったのでは
痛々しく感じた



※1 他の施設を利用されている方は、当該施設の職員が状況整理を行う。
※2 当該施設の支援担当職員及びサービス管理責任者がメンバーとなり、必要に応じて津久井やまゆり園支援職員等も加わる。

②見立てを作る〔津久井やまゆり園の記録〕



険しい表情をして
廊下を行き来

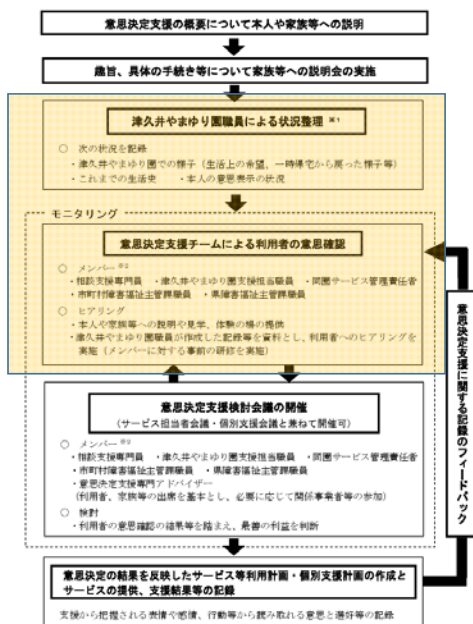


突然 顔を叩く

→ 相談支援専門員と共有 → “体験をスタート”

③体験の場を提供〔XXX〕

図1 津久井やまゆり園利用者の意思決定支援の流れ



※1 趣の整理は利用されている利用、当該記録の職員が作成整理を行う。
※2 当該記録の支援担当職員及びサービス管理責任者のメンバーとなり、必要に応じて津久井やまゆり園職員も参加する。

映像でご紹介
和己さんとの初対面@車内

③和己さんに感じた意思 [XXX]

仕事やってみたい

ちゃんと生活したい





約束
(利用目的の合意)

一生懸命働く

しっかりと食事する

よく寝る

てらん広場

▼開所:平成4年

▼定員:70人

(短期入所利用:5568人/年 15.3人/日)

▼地域生活移行:260人(26年間)

▼区分:5.9(平均)

▼強度行動障害:95%

▼年齢:31歳(平均)

▼在籍期間:5.5年(平均)

てらん広場

終家

てらん広場

通過施設

利用者の暮らし

働く
リサイクル工場・パン屋・畑…

買い物
商店街

里帰り
実家

住む
てらん広場

うさばらし
居酒屋

リラックス
スーパー銭湯

おしゃれ
美容室



クリーニング



ふれあい収集



リサイクル

てらん広場の日中活動



お菓子作り



厨房で食事作り



PC解体

映像でご紹介

体験・前編（滞りと意思・意志）

津久井やまゆり園と同じ様子？

平野 和己 様 個人記録

食事

2016/11/25 金 朝、昼とも食事の声かけに反応せず、居室のテレビ画
のの食堂に入ろうとせず、食事は未摂取。
夕食はいつもと変わらない様子で摂られる。

入浴

2017/09/17 日 入浴の声かけをするが、浴室には向かおうとせず、廊
意思表示はなかった。

和己さんの 意思是？ 体験現場の推測

食**べ**たい？

入**り**たい？

食**べ**たくない？

入**り**たくない？

食事

入浴



“やりたい”意思是 体験現場の推測

入浴

戻るが、向かい**続ける**

食事

進まなくても、箸を持ち**続ける**

仕事

出来なくても、道具を持ち**続ける**



見立ての深化（現場の仮説） “くり返し”の背景

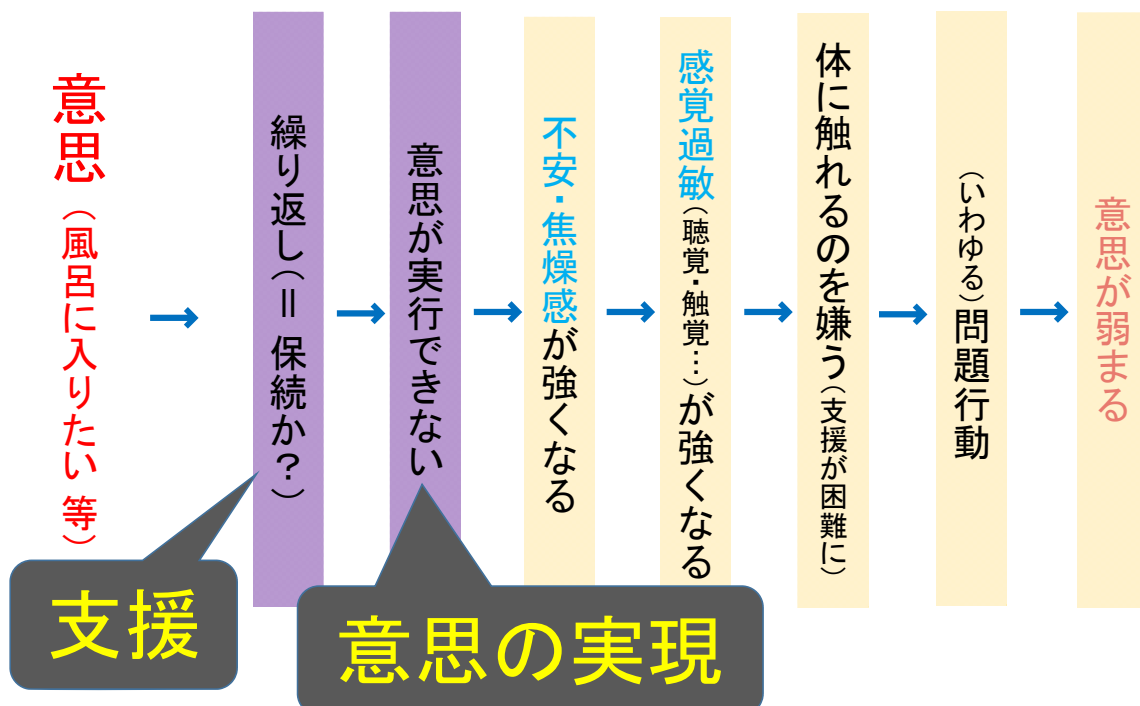


保続（高次脳機能障害など）

- ▼ 同じ動きを 繰り返す
- ▼ 前にした動きが 残存する
- ▼ 持ち続ける（物から手が離せない）

→ 何を“意思”と読み取るべきか

見立ての深化 “問題行動”の背景



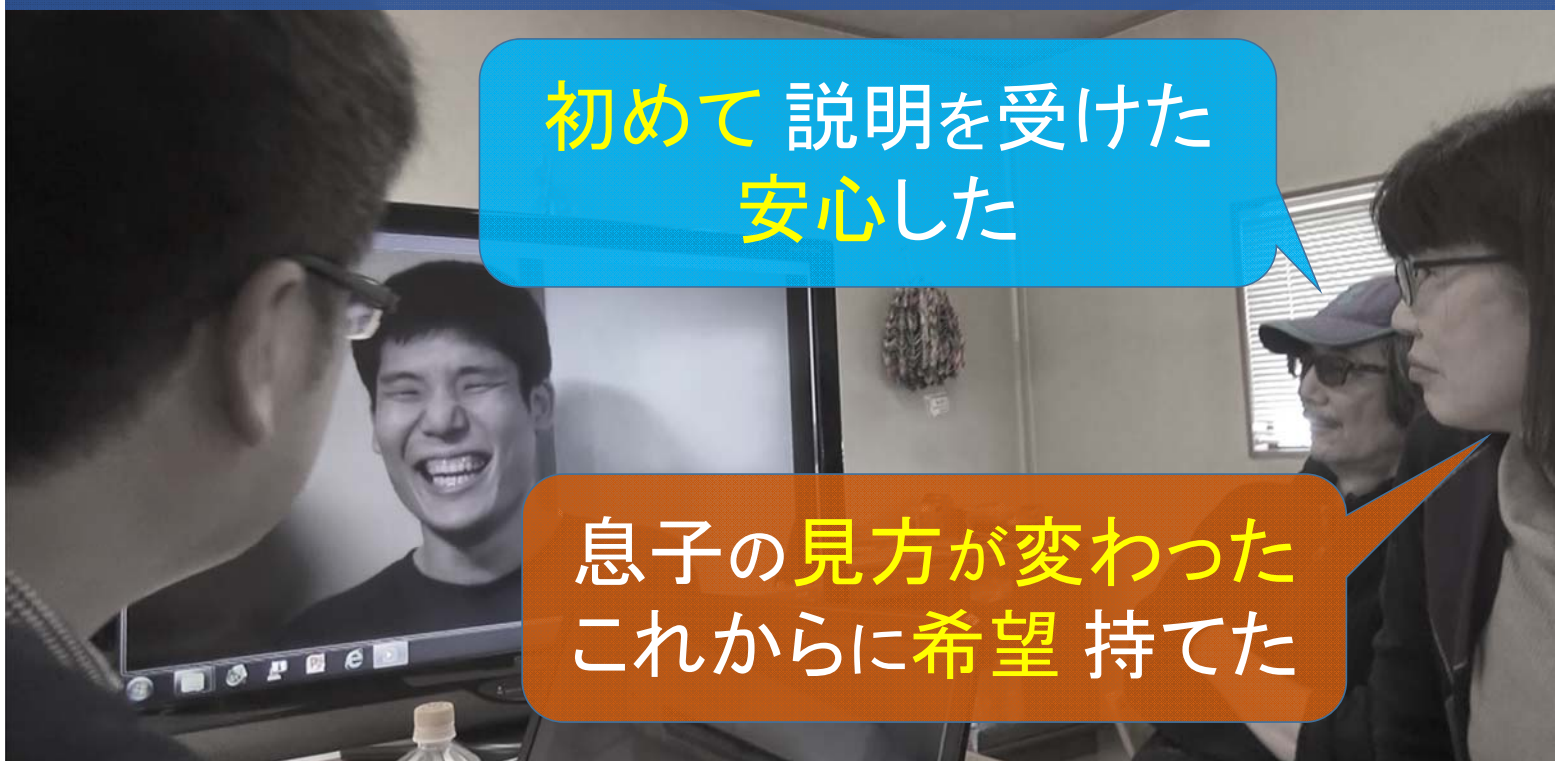
映像でご紹介

体験・後編 (意思の実現)

見立て を知ると 親は？

初めて 説明を受けた
安心した

息子の見方が変わった
これからに希望 持てた



見立て の繰り返しで 変わっていく...

▼成育歴・障害特性・心理面...

総合的に、仮説を作っては、書き換えていく

▼“問題行動”の人 → “意思のある”人
“困らせる”人 → “困っている”人

▼職員 → 共感（これまでの、困難な人生 へ）
意欲（これからの、望む人生を共創）働きがい

▼保護者 → 納得・安心・希望 “ふるさと”との新たな付き合い

見立て とは？（入所施設を必要とした人）

◆本人の生き難さは、どこから来る？

▼なぜ、家庭・地域で暮らせなかった？

▼なぜ、“問題行動”になる？

▼なぜ、この表情・行動 になる？

◆どうすれば、充実した暮らしが送れる？

◆どうすれば、入所施設から出られる？

→ チームで共有 → “どこで、だれと暮らす”

和己さんの

意思(やりたいこと)が

実現できる場所が

和己さんの

望む居場所

ではないでしょうか



やまゆり園入所者 地域生活へ第一歩

津久井やまゆり園に入所していた平野和己さん(28)が31日、グループホーム(GH)での生活を始めた。ダンスと布団を量販店で買い求め、6月1日から日中通う施設に立ち寄り「よろしくお願ひします」と仲間たちにあいさつ。地域生活への第一歩を刻んだ。

＝本記1面に

「これ、僕のうちだよ」。支援者から示されたGHの写真に、平野さんが答えた。全国的に重度知的障害者の地域移行は障害の重さや支援の担い手不足などを理由に進んでいない。そんな中でGHでの生活を始めたことは、現状に風穴をあける大きな一歩だ。

平野さんを支援する社会福祉法人「同愛会」が26年前から横浜市内で運営する入所施設からはこれまで250人が地域生活に

移行し、9割近くが「障害支援区分5、6」の重度障害者という。「重度の障害があっても街中で自由に暮らせるようにさまざまな立場の人が支えることこそ、障害者の存在を殺傷という形で否定したあの事件を乗り越えていくことにつながるのではないか」。GHでの受け入れに奔走した同愛会関係者の問い掛けは、事件発生から2年を前にして惨劇の記憶の風化が急速に進むこの社会に突き付けられているものだ。

住まいの場を巡り、やまゆり園入所者の意向確認は手探りで進められている。地域で生活するのか、園で暮らすのか。どちらが選ばれても、家族らをサポートしながら障害当事者の視点に立った支援が求められていることに変わりはない。

(成田 洋樹)

「これ、僕のうちだよ」

やまゆり園から地域へ 入所者の意向確認後初



横浜市内のグループホームで暮らすために津久井やまゆり園から移入した平野和己さん(左から2人目)。31日午前10時すぎ、同市港南区

「これ、僕のうちだよ」。支援者から示されたGHの写真に、平野さんが答えた。全国的に重度知的障害者の地域移行は障害の重さや支援の担い手不足などを理由に進んでいない。そんな中でGHでの生活を始めたことは、現状に風穴をあける大きな一歩だ。

平野さんを支援する社会福祉法人「同愛会」が26年前から横浜市内で運営する入所施設からはこれまで250人が地域生活に

神奈川
新 聞

2018年(平成30年)
6月1日[金]

先着

意思 → 意志 こう暮らしたい 生きたい

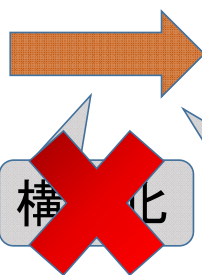


- ▼ 様々な活動が作れる
- ▼ 多様な人と関わりが広がる
- ▼ 多様な自己実現がかなう

意思 → 意志 こう暮らしたい 生きたい

写真: その後の失敗

- ▼ 手を放せない・リモコン
- ▼ 作業所でパンチ



「でも、きっと、再び…」

- ▼ GH・ソファに寝そべる
- ▼ 仲間とご飯?
- ▼ 入浴@ユニットバス

- ▼ 自由度の高いGH
↓ つまづき
- ▼ 和己さんのトラウマ?
(できない人・暴れる人・壊す人というレッテル)

- ▼ 和己さん 確実にある 意志
- ▼ 仲間と職員 (地域での暮らし・働く)
 - ・彼に問いかける 他問
 - ・頑張りを肯定する
 - ・彼の不安を吸収していく

映像でご紹介

智子さん 2019



拘束を解く 智子さんの力(意志)を信じること



ここで 終了

以下は 予備

どう実現？ 強度行動障害がある人と

大切にしていること

- ▼能力存在推定に立脚
(知る・感じる・判断・行う…)
- ▼見立てのくり返し
(行動・表情の意味・背景…)
- ▼意思の実現
- ▼依存先の拡充
(より広い 社会参加)

約束

- ◆「新しい人生を作ろう」「有期限・有目的」の納得

職住分離

- ◆多様な居場所(仲間・職場・地域住民)
- ◆多くの出会い(連帯) → 自己肯定感UP

個々が望む暮らしの構築

- ◆自己実現・充実した余暇
- ◆グループホームなどの体験・建設

Hさんの体験



2016年 7月

殺傷事件

2017年10月

津久井やまゆり園再生基本構想

11月～

同愛会を体験利用(4回 計18日間)

2018年 6月

地域生活移行の第1号 GHへ

(ガイドラインに則った、意思決定支援)

Hさん(28歳)



2歳:熱性痙攣、呼吸困難、救急搬送

7歳:精神科病院 に入院

9歳:障害児施設 に入所

23歳:津久井やまゆり園 に入所

「険しい表情をして 廊下を行き来」

「突然 顔を叩く」

粗暴

「将棋のコマを並べる」

「車の本を読む…」

※作業棟は週2回・1時間

日中活動(園内)・地域サービスの利用困難

智子さん

1996		■2期再整備竣工(定員160)
1997	17歳	▼津久井やまゆり園、入所(個室)
1998		■強度行動障害対策事業、開始
2000	20歳	▼成人式 「明日も、大事にしてください」
2001	21歳	▼帰宅訓練 家族・望まない中で → 混乱 → 車から飛び降り → 骨折 → 津久井日赤・園の“不適切処置”